（5） 2024年（令和6年）3月25日（月曜日） （昭和55年10月22日 第三種郵便物認可） 東京交通新聞 （毎週月曜日発行） 第3116号

お出かけ促すモデル作り

埼玉・氷川タクシー

シエ ハイ ク

コミュニティバス（ハイエース）に装着された当社製品が
2024年3月25日発行【東京交通新聞】
に紹介されました。

①アシストグリップ
②スライド電動ステップ

トーシンテック

コミバス用乗降グリップ

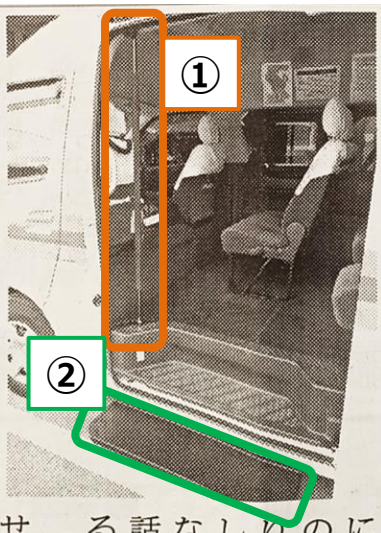
子どもから高齢者まで対応

タクシーの自動ドアやステップなどの補助機器を製造・販売するトーシンテック（愛知県大口町、高木龍一社長）はコミュニティバスやデマンドバスを想定したトヨタ・ハイエース用の乗降グリップを開発、販売を開始した。2月に滋賀県米原市のコミュニティバス「まいちゃんバス」に採用され、今後は地方自治体やタクシー事業者に積極的に販売していく。

このグリップはつかむ部分が低い位置から高い位置まで1㍍あり、子どもから高齢者まで誰でもつかまることができる。取り付けは車両加工や特殊工具が不要で、スライドドア足元にある穴を利用し突っ張る形。誰でも10分程度で取り付けられ、体重をかけても外れることはない。

同社は乗降補助製品としてスライドドアが開くと自動で出てくる電動ステップを販売している。同社営業部は「車両既存のグリップの位置が子どもや高齢者には高くつかみにくいことがわかり、ステップに加え後付けのグリップも用意することでさらに乗降しやすくなると考えた。当社の製品により地域の外出がより快適で楽しいものになれば」と話している。

問い合わせは同社営業部0587（94）2721。



滋賀県米原市の「まいちゃんバス」乗降口に取り付けた1㍍のグリップ（握り棒）と昇降ステップ

トーシンテック
コミバス用乗降グリップ
子どもから高齢者まで対応
タクシーの自動ドアやステップなどの補助機器を製造・販売するトーシンテック（愛知県大口町、高木龍一社長）はコミュニティバスやデマンドバスを想定したトヨタ・ハイエース用の乗降グリップを開発、販売を開始した。2月に滋賀県米原市のコミュニティバス「まいちゃんバス」に採用され、今後は地方自治体やタクシー事業者に積極的に販売していく。
このグリップはつかむ部分が低い位置から高い位置まで1㍍あり、子どもから高齢者まで誰でもつかまることができる。取り付けは車両加工や特殊工具が不要で、スライドドア足元にある穴を利用し突っ張る形。誰でも10分程度で取り付けられ、体重をかけても外れることはない。
同社は乗降補助製品としてスライドドアが開くと自動で出てくる電動ステップを販売している。同社営業部は「車両既存のグリップの位置が子どもや高齢者には高くつかみにくいことがわかり、ステップに加え後付けのグリップも用意することでさらに乗降しやすくなると考えた。当社の製品により地域の外出がより快適で楽しいものになれば」と話している。
問い合わせは同社営業部0587（94）2721。
滋賀県米原市の「まいちゃんバス」乗降口に取り付けた1㍍のグリップ（握り棒）と昇降ステップ

【地域公共交通計画】国交大臣認定付き 205件（2024年1月末）新たに 兵庫県丹波市、和歌山県岩出市、大分県豊後高田市から出され 滋賀県米原市の「まいちゃんバス」乗降口に取り付けた1㍍のグリップ（握り棒）と昇降ステップ 【地域公共交通計画】 国交大臣認定付き205件（2024年1月末）新たに 兵庫県丹波市、和歌山県岩出市、大分県豊後高田市から出され 滋賀県米原市の「まいちゃんバス」乗降口に取り付けた1㍍のグリップ（握り棒）と昇降ステップ 【地域公共交通計画】 国交大臣認定付き205件（2024年1月末）新たに 兵庫県丹波市、和歌山県岩出市、大分県豊後高田市から出され

順風路 TEL:03-6271-6061 / MAIL:info@jpz.co.jp 〒170-0013 東京都豊島区東池袋5丁目44番15号 / 営業時間 9:30～18:00（土日祝休み）
リアルタイム完全自動乗り合いシステム
「コンビニクル」
Web ▸▸ https://www.jpz.co.jp/odb/
ランダムに入る予約に対し、乗り合いを発生させながら効率の良い運行を自動生成
予約から配車まで、オペレータを介さずにフルデマンドの運行が可能
実際に自動生成される運行イメージ
3人の乗り合いが発生!!

矢崎科学技術振興記念財団

研究助成金と学術賞贈呈式

装着したスマートウォッチから取得したデータをAI（人工知能）が解析、不調や異常時にアラートを発報する

「矢崎学術賞」受賞者3人 積を上げた研究者を表彰する「矢崎学術賞」がある。汐見輔・東京大学工学系研究科教授、斐品賞に鈴木大地・産業技術総合研究所センターシステム研究センター主任研究員と星太一・大阪大学大学院工学研究科教授が選ばれた。同財団は1982年矢崎総業設立10周年を記念し、科学技術における研究開発と振興を図り、公益の増進と活力ある社会の実現に資することを目的に設立された。

研究員ら10件、矢崎学術賞は応募7件から功積顕に長谷川史彦・東京大学名誉教授が選ばれた。

矢崎科学技術振興記念財団

研究助成金と学術賞贈呈式

矢崎科学技術振興記念財団（東京・港区、佐藤義一理事長）は2023年度の研究助成金受領者15人、「研究助成金」受領者3人を決定、2月29日に東京・港区の東京プリンスホテルで贈呈式を開催した。

同財団の「研究助成」は「材料・デバイス」「環境・バイオサイエンス」「エネルギー・情報通信」の分野が対象領域で「一般研究」「奨励研究」「特定研究」の3つ。他に国際的な学会での研究発表や共同研究を支援する「国際交流援助」、過去に同財団から研究助成金を受けた研究者の中から優れた業績をあげた研究者を表彰する「矢崎学術賞」がある。

「一般研究助成」（200万円）は応募60件から選考され、藤本地・産業技術総合研究所センターシステム研究センター主任研究員と星太一・大阪大学大学院工学研究科教授ら10件、「奨励研究助成」（100万円）は応募36件から孫鵬鳴・横浜国立大学大学院工学研究院准教授ら10件、「特定研究助成」（100万円）は該当なしだった。

国際交流援助は応募12件から大学准教授・理工学研究科教授ら2件が選ばれた。

同財団は1982年矢崎総業設立10周年を記念し、科学技術における研究開発と振興を図り、公益の増進と活力ある社会の実現に資することを目的に設立された。

実験概要はヤサカ観光バスの運転業務員25人が合計4カ月の期間、スマートウォッチを装着、睡眠の状態および就業中のバイタルサインの変動を「ResQ AI」で解析し、眠気リスクの高まりの予測を目的とする。

「ResQ AI」はバス、タクシー、トラック、倉庫業などの事業者の運転取得したバイタルデータを「ResQ AI」で解析し、不調や異常がある場合は行動の変化などにより、未病対策、職業寿命、健康寿命の延伸を目指すもの。

問い合わせはアドダイス（Eメールinfo@adduce.co.jp、☎03-6706-7788）まで。

乗務員や倉庫作業員の安全を支援する健康見守りのためのAIプラットフォーム。スマートウォッチから取得したバイタルデータをアドダイスの特許技術「SLOMon Technology（ソロモン・テクノロジー）」に基づく人工知能「ResQ AI」で解析を行い、不調や異常がある場合は行動の変化などにより、未病対策、職業寿命、健康寿命の延伸を目指すもの。

問い合わせはアドダイス、Eメールinfo@adduce.co.jp、☎03-6706-7788（平日午前10時から午後5時）まで。

ドライブロはこのほど、フリッカーヘルスマネジメント（東京・立川市）より「FHM Safety」シリーズ」をはじめとする疲労測定事業の譲渡を受けた。「FHM Safety」シリーズ」は疲労度測定事業に関して販売やサポートなどの問い合わせはドライブロで対応する。なお、「FHM Safety」シリーズ」は引き続き販売される。

問い合わせは☎042（306）2024、FAX050（3488）7454、Eメールはinfo@[illegible]まで。